

東京の文化財



木造阿弥陀如来坐像・木造薬師如来坐像・木造釈迦如来坐像(大田区・安養寺)
都指定有形文化財(彫刻) ※11月22日(土)のみ公開



大沢の山葵栽培農家(三鷹市) 令和7年3月、都指定有形民俗文化財に指定



東京タワー(港区)国登録有形文化財(建造物)

目次

東京文化財ウィーク2025が始まります！	1～3
千住宿開宿400年と新規登録文化財(足立区)	4～5
文化財をつなぐ(千代田区・瑞穂町)	6～7
第67回関東ブロック民俗芸能大会のお知らせ／西多摩郡彫刻調査報告—小河内神社所蔵の木彫像—	8

東京文化財ウィーク2025が始まります！

東京都教育庁では、「文化の秋」にちなんで毎年10月、11月に、都内の文化財により親しんでいただくことを目的として「東京文化財ウィーク」を開催しています。

都内各地で集中的に文化イベントが開催されるほか、10月25日(土)から11月3日(月・祝)の10日間にかけては、通常は公開していない貴重な文化財も多数公開されます。この機会にぜひ、東京の豊かな文化に接してみてください。

第67回関東ブロック民俗芸能大会のお知らせ

第67回関東ブロック民俗芸能大会が、10月12日(日)に練馬文化センター大ホールで開催されます。関東甲信越の11都県が持ち回りで開催する本大会が東京都で開催されるのは、実に11年ぶりです。今年は1都5県より7つの民俗芸能が出演します。その土地土地に伝承され、今に息づく貴重な無形文化遺産である「民俗芸能」を一度に7つも鑑賞できます。

東京都からは、板橋区や練馬区を中心に活動している「相模流里神楽・萩原由郎社中」と、奥多摩町の「境の獅子舞」が出演します。

萩原由郎社中は、数ある里神楽の演目から「八雲神詠」を上演します。これは「ヤマタノオロチ」の神話で知られる、スサノオノミコトの大蛇退治のお話です。

境の獅子舞は、関東西部に分布する三匹獅子舞の一つで、江戸時代から続くことが分かる資料も残っています。上演する「太刀掛け」は、「白刃」とも呼ばれる悪魔払いの舞です。

いずれも東京都無形民俗文化財に指定されています。是非お越しいただき、貴重な民俗芸能をお楽しみください。

日時 10月12日(日) 12時開場12時半開演
場所 練馬文化センター 練馬駅北口徒歩1分 ※入場無料

出演予定民俗芸能

相模流里神楽・萩原由郎社中(東京都)	追分の人形芝居(山梨県)
境の獅子舞(東京都)	熊野皇大神社太々神楽(長野県)
山北のお峰入り(神奈川県)	西浦の田楽(静岡県)
三条神楽(新潟県)	



相模流里神楽・萩原由郎社中



境の獅子舞

西多摩郡彫刻調査報告 —小河内神社所蔵の木彫像—

東京都教育委員会では『西多摩郡彫刻調査報告—小河内神社所蔵の木彫像』を刊行しました。小河内神社は、小河内ダム(昭和32年度完成)建設工事のために水没した地域にあった神社、九社十一祭神を合祀した神社で、社殿には各社から集められた木彫像、懸仏、祭祀用具、社殿の棟札等が納められています。今回の調査では、35軀の木彫像について、像の形や構造、大きさ等を記録し、調査写真を撮影しました。また、どんな木材によって作られたかを調査するため、顕微鏡写真等を撮影しました。小河内神社の木彫像は非公開ですので、詳細な情報と画像を報告書でご覧いただければ幸いです。

さて、この度の調査の結果、35軀のうちには、造像が平安時代に遡ると考えられる像が複数確認されました。特に蔵王権現像が5軀残されていることは注目され、西多摩郡檜原村の五社神社、八王子市の御岳神社、あきる野市の武多摩神社に残されている蔵王権現像とともに、西多摩地域或いはその周辺に、古様な蔵王権現信仰が展開していた可能性を示唆するものです。東京都教育委員会は今後も調査を続け、貴重な文化財の保存に役立ててまいります。

蔵王権現立像(都指定有形文化財(彫刻))



編集後記 東京文化財ウィークは今年で28回目の開催です。文化財に触れることのできる貴重な機会ですので、ぜひ現地に足を運び、マナーを守りながら文化財をお楽しみください。

東京都内の文化財を一挙公開



◀ ホームページは
こちら！



◀ キッズホームページは
こちら！

各文化財の公開状況の詳細については、「東京都文化財ウィーク 2025」ホームページ及び「東京都文化財デジタルマップ」でご確認ください。



旧宮脇ビル（川崎ブランドデザインビルヂング） （中央区）【国登録有形文化財（建造物）】

銀座昭和通りの角地に建つ商業ビルで、「銀座で隆盛した不燃化商業ビルの現存例として貴重。」として、2025年3月に国の登録有形文化財に選定されました。特別公開日には、ビルオーナーによる直接解説を予定しています。
公開日：通年公開（※特別公開：10/25・26・31、11/1・2）
公開時間：13:30-16:00 所在地：中央区銀座 1-20-17 料金：無料
※ MUSEE GINZA ギャラリーの営業時間に準ずる
※ 時間外は外観のみ公開
アクセス：東京メトロ 有楽町線「銀座一丁目駅」10番出口から徒歩3分



石幢（立川市）【国宝】

玄武山普濟寺（臨済宗建長寺派別格地）が所蔵する延文6（1361）年造立の石塔です。緑泥片岩の板石に四天王像と仁王像が彫刻され、六角に組み上げられた優美な造形品で、多摩地域に伝わる数少ない国宝のひとつです。防災移設ならびに保存修理が終了し特別に公開します。
公開日：11/1・2 公開時間：10:00～15:00
所在地：立川市柴崎町 4-20-46 玄武山普濟寺 料金：無料
アクセス：JR「立川駅」南口より徒歩15分／多摩モノレール「柴崎体育館駅」より徒歩7分



旧辻陶房主屋兼作業場及び旧辻陶房登り窯（多摩市） 【国登録有形文化財（建造物）】

信楽の土を使った無釉焼き締め陶を中心に、「明る寂び」という作風を追求した陶芸家の辻清明・辻協が、数々の作品を作り出した住居跡兼創作の場と、登り窯を特別公開します。
公開日：10/29・11/3 公開時間：午前・午後の部（詳細は申込時に案内）
所在地：多摩市連光寺 料金：無料
アクセス：京王線「聖蹟桜ヶ丘」駅からバス（聖ヶ丘団地経由永山駅行）又は京王相模原線・小田急多摩線「永山駅」からバス（聖ヶ丘団地経由聖蹟桜ヶ丘駅行）「記念館前」バス停より徒歩10分



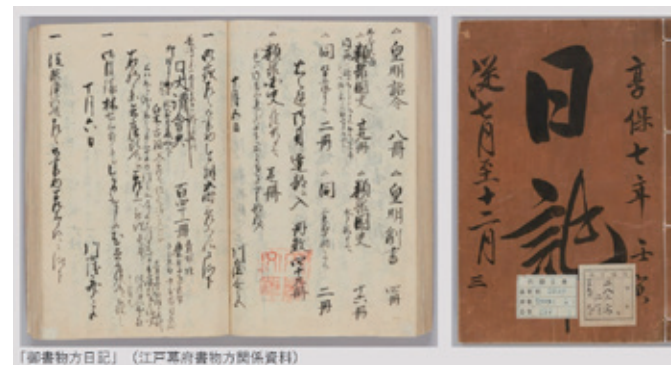
間宮林蔵北蝦夷等見分関係記録（北夷分界余話） 【国指定重要文化財（美術工芸品）】

間宮林蔵のカラフト調査に基づく口述を編集・筆録したカラフトの地誌・民族誌です。彩色図96図を用いてカラフトアイヌの生活が忠実に描かれています。
公開日：10/25～11/3 公開時間：9:15～17:00
所在地：千代田区北の丸公園 3-2 国立公文書館 料金：無料
アクセス：東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口より徒歩5分



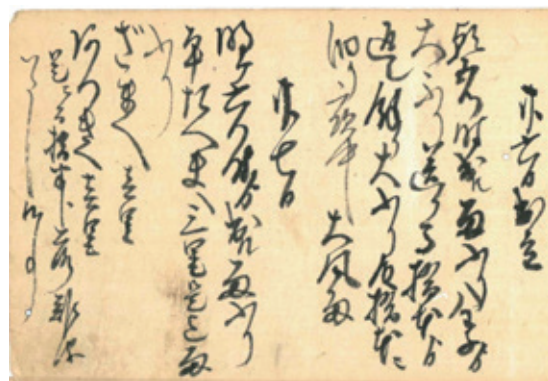
旧古河氏庭園（北区）【国指定名勝】

通常時の一般見学では非公開となっている「旧古河氏庭園内洋館（大谷美術館）の2階和室」の扉を開放し、ホールから和室の内部をご見学いただけます。
公開日：10/25～11/3 ※休館日 10/27
公開時間：10:30～16:30（最終入館は16:00）
所在地：北区西ヶ原 1-27-39 旧古河庭園内洋館
料金：入館料（一般500円 障害者250円 中学生250円 小学生以下無料）
アクセス：東京メトロ南北線「西ヶ原駅」2番出口より徒歩約7分／JR京浜東北線「上中里駅」より徒歩7分／JR山手線「駒込駅」より徒歩12分



江戸幕府書物方関係資料（御書物方日記）（千代田区） 【国指定重要文化財（美術工芸品）】

将軍の図書館・アーカイブズである紅葉山文庫を管理する書物奉行の約150年間にわたる業務記録です。記述の内容は、蔵書の管理・出納、目録類の編纂など多岐にわたります。
公開日：10/25～11/3 公開時間：9:15～17:00
所在地：千代田区北の丸公園 3-2 国立公文書館 料金：無料
アクセス：東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口より徒歩5分



旧多摩郡伊奈村名主石川家文書 （覚日記 伊勢参り）（あきる野市）

【都指定有形文化財（古文書）】

旧多摩郡伊奈村の村役人を務めた石川家に伝来し、江戸時代から明治期中期に至る伊奈村及び周辺村落の歴史的動向を知ることができる史料群です。今回、江戸時代の伊勢参りに関する「伊勢参宮道中日記」を特別公開します。
公開日：10/25～11/3 ※休館日 10/27
公開時間：9:30～16:30
所在地：あきる野市五日市 920-1 五日市郷土館 料金：無料
アクセス：JR五日市線「武蔵五日市駅」より徒歩17分／バス：「武蔵五日市駅」より養沢・檜原方面行き「五日市高校」バス停より徒歩3分

- ・公開する文化財や企画事業の一覧は、東京文化財ウィークホームページに掲載しています。
- ・公開日時の詳細や事前申込の方法については、必ずホームページをご確認ください。
- ・各文化財所在地では、文化財の解説カードを無料配布しています。

見学に当たってのお願い！

文化財は私たちの大切な宝物であり、後世に受け継いでいくべき財産です。文化財を見学するときはマナーを守ってご鑑賞ください。

撮影禁止の場所もありますので、現地の指示や、「東京文化財ウィーク」ホームページの各文化財紹介に記載の注意事項に従ってください。

旧前田家本邸での催し（目黒区）

旧前田家本邸では、「東京文化財ウィーク 2025」の期間中、特別ガイドを実施しています。ぜひ、この機会に足を運んでみてください。（予定日：10/25～11/3）
所在地：目黒区駒場 4-3-55 目黒区立駒場公園
アクセス：京王井の頭線「駒場東大前駅」西口より徒歩8分／小田急線「東北沢駅」より徒歩13分／小田急線「代々木上原駅」より徒歩15分



東京都埋蔵文化財調査センターに併設されている、遺跡庭園「縄文の村」は東京都指定史跡「多摩ニュータウン No.57 遺跡」の上に整備されています。この展示では遺跡の発掘調査で見つかった縄文時代の集落の様子や遺物について展示・解説します。
公開日：10/28～11/24
公開時間：9:30～17:00（3月～10月）
所在地：多摩市落合 1-14-2 都立埋蔵文化財調査センター 料金：無料 アクセス：京王線・小田急線「多摩センター駅」より徒歩約5分



昭和中期まで大田区で行われていた「海苔付け」という方法で、生海苔から乾海苔を作る作業の体験をします。完成した海苔は後日、お手元にお届けします。
※対象：小学生以上（対象年齢未満の体験や見学、同伴は不可）
公開日：11/24・29
公開時間：10:00～12:00
所在地：大田区平和の森公園 2-2 大森 海苔のふるさと館 料金：無料
アクセス：京急線「平和島駅」又は東京モノレール「流通センター駅」より徒歩約15分

東京都文化財デジタルマップ公開中

東京文化財ウィーク期間中には、特別公開・企画事業・ガイドステーション施設の情報も公開予定です。ぜひ文化財を訪れる際にご活用ください。

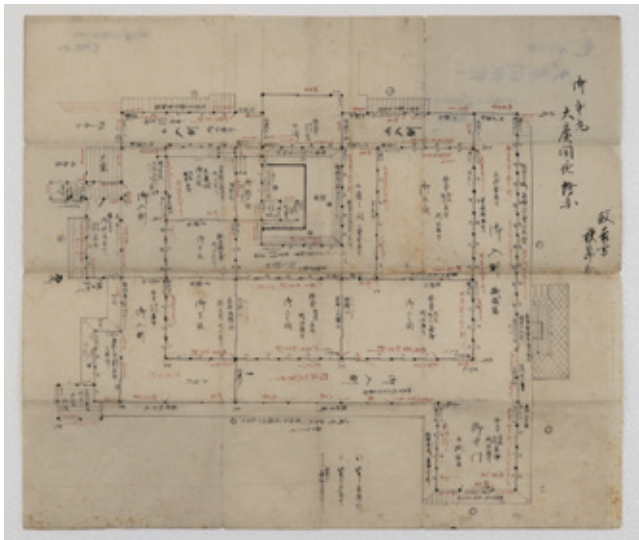


文化財をつなぐ(千代田区)

御殿の建築現場を後世へ 江戸城本丸・西丸御殿建築図面

調査と文化財指定

江戸城本丸・西丸御殿建築図面（以下、「江戸城建築図面」という。）は、平成23年の千代田区立日比谷図書文化館の開館にあわせて、区が古書店から購入した資料です。平成29年から令和2年にかけて3回の調査を行い、報告書を刊行しました。その中で文化財としての価値を明らかにし、令和4年4月1日付で千代田区指定有形文化財（歴史資料）に指定しました。



▲御本丸大広間地絵図

「江戸城建築図面」の魅力

江戸城御殿建築に関わる図面は、幕府作事方や小普請方、あるいはその配下の大工棟梁らの手によって管理されたため、現在所在が確認されている資料の多くは、作事方や小普請方を務めた家に伝来したものです（都立中央図書館所蔵「甲良家文書」、国立歴史民俗博物館所蔵「大工棟梁鈴木家文書」など）。それに対し、本資料は幕府作事方が作成した元図の写しと見られ、現場大工が所持したものと考えられています。竣工図と比較すると現場レベルの模様替えの痕跡も見られ、現場で図面がどのように使用されたかがうかがうことができます。また、元治元年(1864)に再建された西丸御殿は、同時期に焼失した本丸御殿の仮御殿として使用され、その後明治宮殿として使用されました。この仮御殿に関しては、都立中央図書館所蔵の平面図を除きほとんど図面の所在が確認されて

いませんでしたが、「江戸城建築図面」には仮御殿の土台図や矩計図、詳細図などが含まれており、今後御殿建築の研究に寄与すると期待されます。

「江戸城建築図面」を未来へつなぐ

現場図面のため、使用されている紙は高級なものではなく、小さい紙を何枚も継いで大判にしています。収集時点ですでに劣化が進んでおり、特に継ぎ部分の糊剥がれが激しい状態だったため、修復を行いました。紙の質が悪くしわになりやすいため、中性紙封筒への出し入れ時に負荷がかからないよう収納方法を工夫し、継承できるように努めています。

文化財指定後、展覧会等ではお披露目の機会がありませんでしたが、令和7年10月1日からの企画展で、江戸城大奥の空間を紹介するために展示する予定です。ぜひ間近でご覧いただき、江戸城御殿建築の現場を想像していただけたら幸いです。



▲澱粉糊を用いた継ぎ直しの様子

【問合せ先】

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
千代田区立日比谷図書文化館文化財事務室
(千代田区地域振興部文化振興課文化財係)
Tel: 03-3502-3348
HP: <https://www.edo-chiyoda.jp/index.html>



●イベント情報

企画展「千代田の大奥―時代へのまなざし―」
会期: 10月1日(水)～11月9日(日)
場所: 日比谷図書文化館1階 特別展示室
観覧料: 一般500円、大学・高校生300円
詳細はこちらをご覧ください。
https://www.edo-chiyoda.jp/tenji_koza_kodomotaikenkyoshitsu/tenji/1/589.html



文化財をつなぐ(瑞穂町)

東京狭山茶手もみ製法

瑞穂町では、令和4年、町の登録無形文化財として、東京狭山茶手もみ製法が登録されました。狭山茶の主要生産地は埼玉県入間市、所沢市、狭山市など埼玉県側ですが、東京都では瑞穂町の生産量が最も多く、青梅市などとともに「東京狭山茶」として分けて呼ぶこともあります。

狭山茶の歴史

狭山茶の歴史は、江戸時代の後期、文化・文政年間(1818～1829)に狭山丘陵北麓の村野盛政(瑞穂町)と吉川温恭(埼玉県入間市)の二人が中心となり地域に根付かせていきます。京都宇治の永谷宗円が考案した宇治製法を導入し、江戸の茶問屋との取引を行うことで江戸を中心として関東に広まり、明治時代には海外にも輸出することで地場産業となります。現在では個人で茶園を営んでいる家が多いため、茶の栽培から製造、販売までを一貫して行う、六次産業化した茶園も多くあります。



▲吉川温恭肖像画



▲狭山茶場之碑

手もみ製法

手もみ茶は、摘んだ茶の新芽を、「蒸し」「葉振り」「軽回転」「重回転」「玉解き」「中上げ」「揉切り」「転揉」「こくり」「乾燥」といった工程を経て荒茶に仕上げる製法です。現在ではこうした工程は機械によって行われていますが、それ以前は全て手作業で行っていました。蒸された茶葉は、焙炉(はいろ)の上で揉みながら乾燥されますが、思った通りの味・色・香りに仕上げるためには熟練した技術が必要となります。

▲東京狭山茶手もみ保存会

また、狭山茶の特徴は「狭山火入れ」と呼ばれる、通常より強め・高温での火入れです。これは狭山茶の生産地がお茶の栽培にとっては比較的寒い丘陵地帯のため、お茶の葉肉が厚くなるため、製茶加工の仕上げ段階で高温の火入れをすることで狭山茶のお茶の味わいや香りが生まれます。



▲仕上げに近い手もみ茶

普及活動

狭山茶の手もみ製法については、瑞穂町を中心とした周辺地域の茶園の当主やその関係者による「東京狭山茶手もみ保存会」によって伝承されています。瑞穂町では瑞穂町郷土資料館での手もみ実演のイベント(年2回実施予定)や町の産業祭での実演などで一般の方でも手軽に手もみ製法を見ていただける機会を設けています。今後も一層の手もみ製法の技術向上と情報の発信が望まれます。



▲手もみ実演の様子

【問合せ先】

瑞穂町教育委員会教育部図書館課
文化財担当(瑞穂町郷土資料館けやき館)
Tel: 042-568-0634